

令和元年6月20日

福知山公立大学
「田舎力甲子園」ご担当者様

長崎県立宇久高等学校
校長 前田由美子

2019地域活性化策コンテスト「田舎力甲子園」に係る書類について（送付）

貴学におかれましては、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

早速ではございますが下記の書類をお送りします。ご査収の上よろしくご手配を賜りますようお願い申し上げます。

記

研究要旨・報告等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1部

以上

「宇久島PRに向けた地域活性プロジェクト」

その1 ガンガゼ魚醤油の醸造及び魚醤油を活用した商品開発

その2 観光客誘致に関する取組(観光雑誌編集とこれからの取組)


長崎県立宇久高等学校 普通科 第3学年

ナカムラ コウスケ ヒラタ ショウ ヨコヤマ ケイスケ ウチノ マ ナ カワバタ トモ ナカムラ モモコ
中村 紘輔 平田 翔 横山 佳祐 内野 真菜 川端 智 中村 桃子

担当 川口 恭子
電話 0959-57-3155

「宇久島PRに向けた地域活性プロジェクト」

その1 ガンガゼ魚醤油の醸造及び魚醤油を活用した商品開発

<p>団体名 2年 地産食品開発班</p>	
<p>発表題目 宇久島PRに向けた地域活性プロジェクト ～ガンガゼ魚醤油の醸造及び魚醤油を活用した商品開発～</p>	
<p>指導者名 川口 恭子、大久保加奈子、田中 颯真、山佐 菜月 生徒氏名 中村 紘輔、平田 翔、横山 佳祐、内野 真菜、 川端 智、中村 桃子</p>	
<p>1. 研究の背景・動機 宇久島は五島列島の最北端にある、人口約 2000 人の小さな島である。島の主な産業は農業と漁業で、漁業を営む人は島民の約 10%ほどである。宇久の漁協の方曰く、近年ウニの仲間であるガンガゼが増加し、その結果アワビやサザエなどの漁獲量が減少しているという。そのためガンガゼの駆除を年 2 回行っているが、駆除されたガンガゼの有効活用方法はなかった。昨年度宇久高等学校の 2 年生が、この駆除されたガンガゼを用いた魚醤油の開発に成功し、さらにその魚醤油の活用のレシピも考案した。本年度はその研究を引き継ぎ、よりおいしいガンガゼ魚醤油の醸造と魚醤油を活用したレシピ開発を行った。</p> <p>2. 目的・意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駆除されたガンガゼや市場での商品価値が比較的低い魚を、魚醤油として加工することで有効活用する。 ・ 魚醤油を使ったレシピを考案し、魚醤油の汎用性や利用価値を高める。 <p>3. 研究方法</p> <p>①魚醤油の醸造 昨年同様、原材料としてガンガゼを使用。さらに市場での商品価値が比較的低いオジサンとイラを原材料として用い、食塩水と乾燥麦麴を混ぜ合わせて約 7 ヶ月間発酵させ、3 種類の魚醤油を醸造した。</p> <p>②魚醤油を使った商品・レシピの開発 魚醤油を活用したレシピを試作・検討し、マドレーヌ、スイートポテト、ドレッシング、焼きおにぎり、うどんスープ、せんべい、みたらしだんごなどを考案した。また、あら茶房（宇久町平）に魚醤油を活用したレシピを考案していただき、料理への使い方などもアドバイスしていただいた。</p> <p>③産業まつりでの販売 11 月 11 日の産業祭りにおいて、マドレーヌ、スイートポテト、ギョッキ（昨年度 2 年生考案のクッキー）を各 100 円で、各種魚醤油 120ml を 600 円で販売した。商品パッケージは手書きの文字・イラストで作成。醸造過程の動画作成を行い、魚醤油のラベルに QR コードを貼り付けるなど、PR にも力を入れた。</p> <p>④成分分析 6 月 6 日から約 4 週間おきに魚醤油をサンプリングし、遊離アミノ酸分析を行った。今年度醸造した 3 種類の魚醤油と昨年度醸造した 2 種類の魚醤油との比較、および産業祭りで実施したアンケート結果と成分分析の結果との比較検討を行った。</p> <p>4. 結果・考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 魚醤油については、成分分析の結果から発酵期間を長くしてもアミノ酸量が増えるわけではないことがわかった。また、材料に含まれるタンパク質量が多いほど魚醤油のアミノ酸量も多いことが考えられる。 ・ 魚醤油は他の醤油と比べて、塩分濃度が高い、冷めると香りが強くなるという特性があることがわかった。また数多くの試作の中で、うどんのだしやドレッシングは、作りやすく魚醤油のうまみも活かされており特に好評であった。だしやドレッシングはただの魚醤油よりも手軽に使えるため需要も高いと考えられる。 <p>5. 結論・今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガンガゼ魚醤油は、カラの部分は使わず、タンパク質の多い身の部分のみを使用する。 ・ 魚を用いた魚醤油においては、魚のタンパク質量を調べ、その数値が低い魚については分量を増やす。また、商品価値の低い魚の中でタンパク質量が多いものがあれば、魚醤油に使用することを検討する。 ・ 魚醤油の活用法として、より汎用性の高い 2 次加工品（ドレッシングやタレ）を開発する。 	



魚醤油作り



2年 地産食品班



ガンガゼ駆除見学
一つ一つ網ですくっていて大
変そうでした。

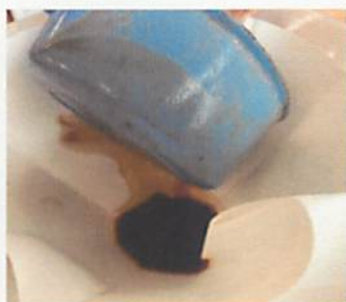


仕込み
魚・麦麴・塩・水を混ぜて仕込
みを行いました！



攪拌
始めの一週間は毎日、後は二週
間に一回かき混ぜます。

約7ヶ月熟成



火入れ・ろ過・瓶詰め
思っていたよりもろ過するのに時
間がかかりました。

QRコード



QRコードを読み取
ると、「魚醤油がで
きるまで」のムー
ビーが流れるよう
にしました。

☆コメント☆

- ★思っていたよりも魚しょうゆを作るのは大変でした。
- ★作り始めたときはしょうゆになるか不安だったけど、徐々に水分が増えてきて最後には形になったので嬉しかったです。
- ★重労働できつかった！！
- ★初めは匂いがきつかったが、だんだんしょうゆに近づいてきて良かった。
- ★最初は、茶色がかかった色でしたが、発酵が進むにつれ、色が濃くなってゆくのが不思議でした。



完成

うま味は、主にグルタミン酸やアスパラギン酸などのアミノ酸によって生じる味覚である。醸造した魚醤油のうま味を評価するため、液体クロマトグラフィーで遊離アミノ酸の分析を行い、昨年度の魚醤油との比較を行った。

図1は昨年度・今年度の魚醤油の遊離アミノ酸量を、市販の魚醤油(小値賀産)を基準1として規格化したものである。図2は6/6~10/22の魚醤油のサンプルの総遊離アミノ酸量の変化を示している。

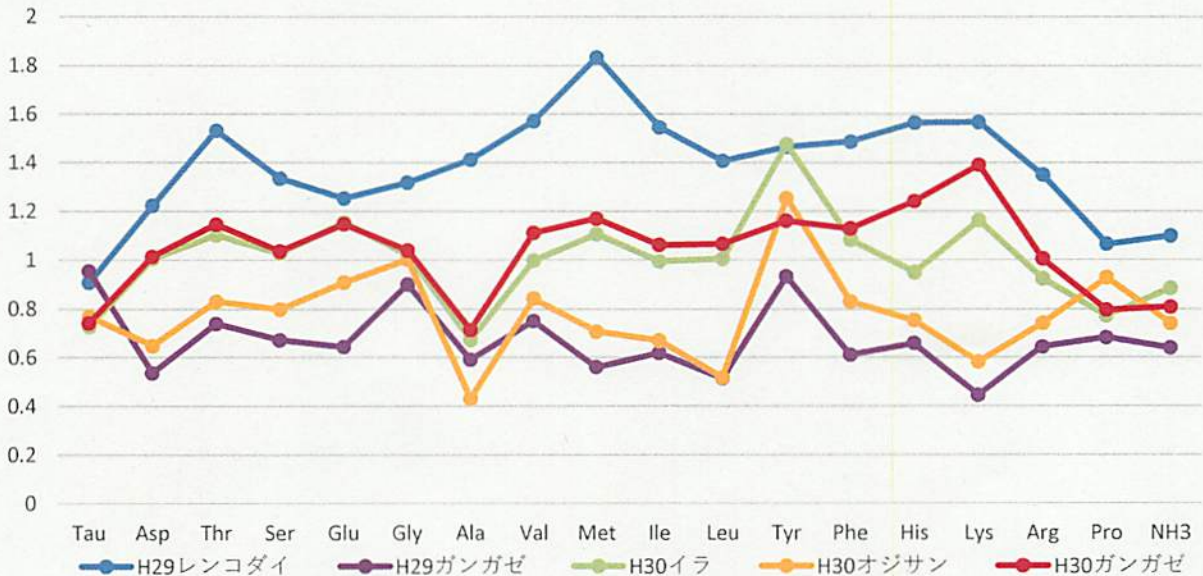


図1 遊離アミノ酸 市販品規格化パターン

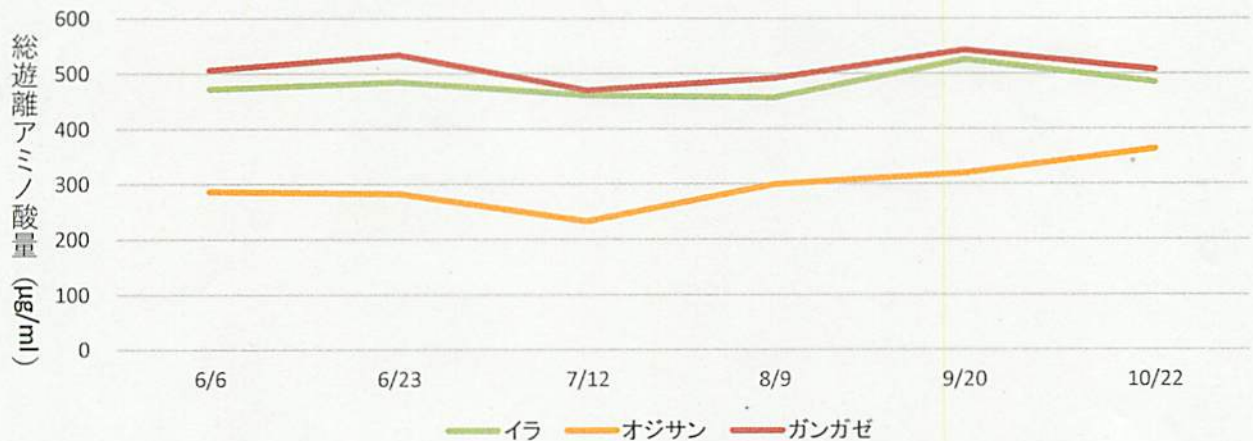


図2 遊離アミノ酸量の変化

結果

今年のガンガゼ魚醤油は昨年に比べグルタミン酸(Glu)やアスパラギン酸(Asp)の量は増加した。ガンガゼ魚醤油の総遊離アミノ酸量は、サンプルを採取し始めた6/6と終点の10/22で大きな変化は見られなかった。

考察

一般にウニの仲間の殻の主成分は炭酸カルシウム等が占める割合が多く、タンパク質含有割合は中身の生殖腺のほうが多い。魚醤油のアミノ酸は原材料のタンパク質が酵素により分解されることによって生じるため、ガンガゼ魚醤油の遊離アミノ酸量の増加については、醸造の際に使用する部分(昨年度 殻+中身(生殖腺) → 今年度 中身(生殖腺)のみ)の変更が大きく影響していると考えられる。

総遊離アミノ酸量の変化のグラフより、仕込み時に遊離アミノ酸量が0だと仮定すると、アミノ酸量の急激な増加は、仕込みから約1ヵ月半以内に起こると予想される。これより、醸造期間の延長はアミノ酸量の大きな変化には寄与していないと考えられる。しかし、9月末頃から香りの変化を感じられるようになったことから、醤油らしい香りや風味を得るにはある程度の醸造期間が必要になると考えられる。



パッケージデザイン



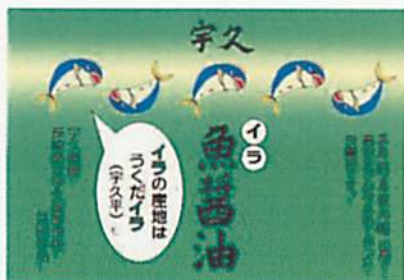
2年 地産食品班

魚醤油

がんちゃん

ガンガンいくぜ！！

作:川端智



イラの産地はうくだイラ(宇久平)

ガンガンいくぜ！

オジサンの芳醇なかおり...

ギャグ考案:中村紘輔 平田翔 横山佳祐

マドレーヌ



スイートポテト



ギョツキー



宇久高校の校章をモチーフにし、宇久島の「う」の字を9個ならべて商品をイメージした色をつけました。

作:中村桃子

商品文字

魚醤油やお菓子のパッケージの文字を筆で書きました

すいと
ぽてと

魚醤油

最北端

五島
列島

手仕込み
魚醤油使用
長崎 宇久

作:内野真菜 川端智 中村桃子

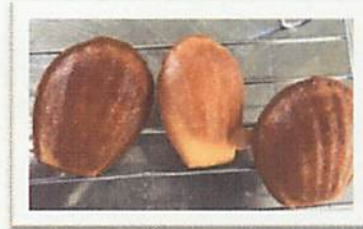
ガンガゼ魚醤油を使ったお菓子づくり

2年 地産食品班

フードの時間や総学などを使って試作



まどれいぬ、すいとぽてとに決定



木寺さんにアドバイスをもらいながら再度試作



まどれいぬ試作過程



長方形、マフィン型



バナナ入り、マフィン型



貝殻型

すいとぽてと試作過程



丸める



クッキーに乗せる



クッキー生地包む

完成



産業祭で魚醤油を購入した方にレシピを配付しました。昨年度、魚醤油の使い道についての課題があったので、今年度は開発したレシピを配付するという形を取りました。



ごまドレッシング

宇久高2年生の投票で
人気NO.1でした!

【材料】 魚醤油 小さじ1 マヨネーズ 大さじ2 砂糖 大さじ1
酢 小さじ2 ごま油 小さじ1 すりごま 大さじ2

【つくり方】 材料を混ぜるだけ

【ひとくちメモ】 さらさらした食感がお好みの方は、ゴマの量を減らしてください。



中華風醤油ドレッシング

ブロッコリー
と合います♪

【材料】 魚醤油 大さじ1 砂糖 大さじ1 酢 大さじ1
ごま油 大さじ1 ごま 適量

○調味料(ごま以外)はすべて分量が大さじ1で覚えやすい!

【つくり方】 材料を混ぜるだけ

【ひとくちメモ】 ごまと魚醤油の風味がして、とてもおいしいです。



おすすめNO.1 魚醤油うどん(つゆ)

魚醤油のおいしさが
一番味わえるレシピ!

【材料】 だし汁 300cc 魚醤油 大さじ1 みりん 大さじ1/2
塩 小さじ1/2 うどん麺 1人前

【つくり方】 うどん麺以外の材料を鍋に入れ、火にかける。

沸騰したら麺を入れ、ひと煮立ちさせる。お好みの具材を加えて完成。

【ひとくちメモ】 ふつうのだしに魚醤油をちょっと加えるだけでもおいしさUPします♪



焼きおにぎり

魚醤油の香ばしさが
たまらない!

【材料】 米 1合 ★魚醤油 小さじ2 ★みりん 小さじ2
★ごま油 小さじ1 ★和風だし 小さじ1

1 ★を混ぜ合わせタレを作る



2 ボウルの中にご飯を入れ、タレと混ぜる



3 好みの形に握り、オーブンで両面を6分ずつ焼く。



【ひとくちメモ】 ご飯に調味料を混ぜ込まず、表面に塗って焼いてもおいしいです。



醤油マドレーヌ

作り方はとっても簡単です!
(産菓まつり販売商品)

【材料】 薄力粉 50g ベーキングパウダー 小さじ1/2
砂糖 50g 溶かしバター 50g 醤油 小さじ1
卵 1個 コンデンスミルク 15g

1 ボウルに薄力粉・ベーキングパウダー・砂糖を入れて泡立て器でよく混ぜる。



2 卵・溶かしバター・コンデンスミルク・醤油を加えてよく混ぜる。



3 油を塗った型に2を流し入れて予熱したオーブン180度、15~20分焼く。竹串をさして何もつかなければOK



魚醤油を使った レシピ



本日は私たちが作った魚醤油をお買い上げいただき、どうもありがとうございます。魚醤油を使った簡単なレシピを考えてみました。ぜひ試してみてください。
宇久高校2学年



ぜひ作ってみてね



あられ茶房 柿田さん考案！家で作れる簡単魚醤油レシピ

魚醤油の可能性をもっと広げるために、あられ茶房の柿田裕哉さんに「家で作れる簡単魚醤油レシピ」を考案して頂きました。どれもとてもおいしく、簡単に出来る料理です。ぜひご家庭で作ってみてください。



スタミナマヨネーズ



【材料】(比)
マヨネーズ 10
焼き肉のタレ 2
魚醤油 1

【作り方】
材料を混ぜ合わせる。

島野菜と魚醤のペペロンチーノ



【材料】(一人分)
水100cc 魚醤油10cc 野菜 スパゲッティ
ベーコン 塩胡椒 鷹の爪 ニンニク オリーブオイル

【作り方】
①フライパンにオリーブオイル、にんにく、タカノツメ、ベーコンを入れ、強火で炒める。
②野菜、魚醤油、水を入れ、炒める。
③茹でたパスタを入れ、さっと炒めて盛りつける。塩こしょうで味をととのえる。

沖あらかぶと魚醤油の島ご飯



<炊き込みご飯>
【材料】
米1合 出汁200ml 魚醤油20ml みりん20ml

【作り方】
すべての材料を炊き込む。

<混ぜご飯>(比)
【材料】
みりん2 酒2 濃口醤油1 魚醤油1

【作り方】
炊いたご飯と材料を混ぜ合わせる。

謝辞

魚醤油の醸造指導・助言を頂いた 宇久観光協会会長 村上 正一様、
魚醤油の醸造指導・助言を頂いた 宇久小値賀漁業協同組合指導員の皆様、
魚醤油の醸造指導、遊離アミノ酸分析等、技術指導を頂いた
長崎県北振興局商工水産部県北水産業普及指導センター 松本 欣弘様、
魚醤油を活用したお菓子作りの指導・助言を頂いた 筑豊製菓株式会社 木寺 岳人様、
魚醤油を活用したお菓子作りの協力を頂いた 川村商店 木寺 剛士様、
魚醤油を活用したレシピを考案していただいた あられ茶房 柿田 裕哉様、
魚醤油の醸造活動をPRしていただいた 宇久地域おこし協力隊 北原 美穂子様 他、

多くの方々にご協力を賜りました。ありがとうございました。

①発表会をしてみたの気づき・反省

- ・目先のことだけを考えるのではなく全体を見通して計画的に進めることが大切（早めに取り組む）。
- ・ちょっとした変化などを継続して記録しておく（魚醤油の状態・お菓子の試作の変更点）。
- ・研究にはたくさんの時間と労力が必要である。
- ・パワーポイントを用いて発表をするときは、文字の大きさや色に気をつける。
- ・難しいことをいかに簡単に伝えるかが大切だとわかった。
- ・どうすればわかりやすく聞き手に聞いてもらえるかを考える。
- ・材料集めは抜かりなく。まず自分たちが研究内容を理解する。
- ・魚醤油に同封したアンケートはほとんど集まらなかった。産業祭が終わった後の回収は難しい。魚醤油のラベルに載せていたQRコードに、広告動画だけでなくアンケートも記入できるようにするなどの工夫が必要だと思った。

②アンケート結果を受けての気づき・反省

- ・年齢問わず楽しませることができた。
- ・難しい内容も劇を取り入れて発表することで、小学生・中学生にもおもしろく、わかりやすく伝えることができた。
- ・Uku Labo の活動を発表することで、多くの人に興味を持ってもらうことができた。

③来年度に生かしたいこと

- ・目先のことだけ考えるのではなく、全体を見通して計画的に活動しようと思った。
- ・活動の過程は細かいことでも写真や記録に残していった方がよい（記録には日付もつける）。
- ・難しい内容は劇などでおもしろく発表したほうが伝わりやすい。
- ・パワーポイントなどの使い方が身についたので、来年度の発表はより完成度の高いスライドを作りたい。

④後輩（次の担当者）へのメッセージ

- ・魚醤油のかきまぜのときは手袋をつけよう（手がかゆくなる）。制服ではかきまぜをしないほうがよい。虫（ハエ）に気をつけよう。
- ・魚醤油の状態（日付・おい・色など）の記録を細かくとっておいたほうがよい。また、写真も作業のたびにとっておいたほうがよい。
- ・成分分析のためのサンプルは、仕込みを行ってからすぐ採り始めたほうがよい。
- ・魚醤油の種類がわからなくなるので、混ざらないようにしましょう。
- ・発表では、聞く人の年代などを考えて、わかりやすく説明することが大切。

アンケート結果


宇久島全体で活性化を目指すために、保護者や小学生、中学生、地域の方々など(約200名)に向けて発表会を行い、アンケートを実施した。

- ・ Uku Labo の活動を通して、宇久島の良いところを沢山見つけることができた。
- ・ ふるさと宇久島への関心が強くなり、大人への刺激になっていると思う。
- ・ 「おもしろさ」と「わかりやすさ」のある発表だった。
- ・ 「島のために何ができるか」という気持ちがあり感動的だった。
- ・ 生徒の中からいつの日か宇久島に戻り、島を活性化させる人材が出てきてほしい。
- ・ 子どもを宇久高に入学させて良かった。宇久高だからできることですね。
- ・ 宇久の子どもとしての誇りと自信を持ってほしい。すばらしい取り組みだ。
- ・ 楽しく宇久島のことを考える機会を与えてもらった。
- ・ 宇久島を愛する気持ちがよく伝わってきた。
- ・ おおげさではなく「日本に世界に誇れる発表」
- ・ 大人が見習うべき点もたくさんあると感じた。ハイレベル。
- ・ 魚醤油をつくってみたい。
- ・ 来年の発表会も絶対行きたいと思った。
- ・ 宇久をPRするために沢山の活動をしていることがよく分かった。
- ・ 魚醤油を2種類もっている。おいしかったのはガンガゼの魚醤油。
- ・ 聞き手を飽きさせないエンターテイメント性のある発表だった。
- ・ 少ない人数でも熱心に取り組んでいてすばらしい。
- ・ 漁師が取り組めるイベントを研究してみたい。
- ・ 民泊・旅館業・漁業の活性化の研究に取り組んでほしい。
- ・ 宇久の産業や空き家の活用をしてほしい。
- ・ 神浦トンネルで消えかかっている絵の保全(復元)などの提案をしてほしい。
- ・ 海洋ゴミに関する取り組みをしてほしい。
- ・ You Tube など取り組んでみては？

Uku Labo

「宇久島PRに向けた地域活性プロジェクト」

その2 観光客誘致に関する取組(観光雑誌編集とこれからの取組)

団体名 3年 カミングジェネレーションプラン班	 <p>出典（海風舎・隔月刊「島へ。」103号）</p>
発表題目 宇久島PRに向けた地域活性プロジェクト ～観光客誘致に関する取組（旅行雑誌編集とこれからの取組）～ 指導者名 川口 恭子、辻尾 祐介、宮崎 仁史、磯野 史子 生徒氏名 令和元年度3年生 6名 内野 真菜、川端 智、中村 紘輔 中村 桃子、平田 翔、横山 佳祐 他 平成30年度卒業生10名	
研究発表要旨	
1. 研究の動機	
<p>私たちが住む宇久島では、少子高齢化が進み、人口の半分以上が65歳以上の高齢者である。また、高校卒業後には島を離れる生徒がほとんどであり、若者の流出は喫緊の課題である。このような現状のもと、雑誌を通して多くの人に「宇久島の魅力を知ってもらい宇久島の活性化を図る」ことをねらいとして、海風舎の全国版雑誌『島へ。』の執筆に取り組むこととした。この活動を通して高校生は、雑誌『島へ。』を発行する海風舎と一般社団法人3710Lab（みなとラボ）の皆さんにご指導をいただきながら、自らの手で、カメラマンや記事デザインなどの雑誌作成の全工程を手がける。このことにより、高校生自身が宇久島の魅力を再発見すると共に、地域のよりよい未来を創造する足がかりとすることが期待できる。また、その研究を引継ぎ、宇久島滞在型旅行プランの開発とそのPR動画作成に取り組んでいる。</p>	
2. 研究計画	
<p>【平成30年度3年生】</p> <p>第1回ワークショップ（4月12日） ・ 島生活を考える ・ 企画考案</p> <p>第2回ワークショップ（5月24日） ・ 記事分担 ・ レイアウト</p> <p>講話「宇久島について」（5月30日） ・ 宇久島の産業 ・ 歴史・文化について ・ 宇久島の魅力と課題</p> <p>第3回ワークショップ（6月7日） ・ 取材テーマの選定 ・ 取材先の選定 ・ 取材先の予約</p> <p>第4回ワークショップ（8月1・2日） ・ 取材の実施 ・ 原稿執筆</p> <p>第5回ワークショップ（10月8日） ・ 紙面のレイアウト ・ 文章の推敲</p> <p>産業祭（11月11日） ・ パネル作成 ・ 販売予約 ・ 宣伝</p>	
<p>【令和元年度3年生】</p> <p>Uku Labo 事前学習会①（3月13日） ・ 九州を訪れる観光客に関する各種統計 ・ 旅行プランの検討</p> <p>Uku Labo 事前学習会②③（3月19日・26日） ・ 五島神楽について</p> <p>取材活動（5月15日） ・ 宇久島の「食」について</p>	
3. 研究活動	
<p>(1) 旅行雑誌編集</p> <p>① テーマ設定・島生活を考える ・ 企画考案 ・ 記事分担 ・ 各記事レイアウト</p> <p>② 取材活動 ・ 取材テーマの選定 ・ 取材先の選定 ・ 取材先の予約 【魚醤・神楽・かんころもち・インスタ映えスポット・魚・捕鯨】</p> <p>③ 執筆活動 ・ 紙面のレイアウト・文章の推敲</p> <p>④ PR広報 ・ 文化祭（CM作成） ・ 産業祭（PR広報パネル作成、宣伝、販売予約—58冊） ・ 各新聞社記事掲載【離島経済新聞・長崎新聞・西日本新聞】</p>	
<p>(2) 旅行プラン開発</p> <p>① 事前学習 ・ 観光に関する各種統計の収集と分析 ・ 五島神楽について</p> <p>② 取材活動 ・ 取材テーマの選定 ・ 取材先の選定 ・ 取材先の予約 【宇久島の「食」について】</p>	
4. 成果と課題	
<p>・ 講話や取材を通して、宇久島が抱える課題や魅力について自らの問題としてより深く考えることができた。</p> <p>・ 不特定多数の読者に宇久島の魅力を伝えるという視点のもと、テーマ設定、取材、記事の執筆、レイアウトを自ら手がけることで、雑誌作成の過程を知ることができた。</p> <p>・ 雑誌作成の経験を広報活動やその他の活動に活かすことができた。</p> <p>今後、成果を行政などと共有したり、具体的な宇久島滞在型の旅行プランの開発を通して、島の更なる活性化につなげたい。</p>	

カミングジェネレーション班～「宇久島の未来をつくるプロジェクト」～について

名前 宮崎 風香

☆カミジェネ班とは☆

「カミングジェネレーション」とは、「次の世代」という意味を指します。いよいよ宇久島を離れ、次世代を担っていく私たち3年生が一から宇久島を見つめ直し、活性化を図る取り組みです。



☆活動内容☆

今回は、日本で唯一の島マガジン『島へ。』に掲載する宇久島特集を作成しました。3710Lab(みなとらぼ)の方々に協力していただきながら、記事に取り上げる題材決定から取材、編集作業に至る全工程を行いました。限られたページの中で、「自分たちが島外の人に知ってほしいこと」や「伝えたい宇久島の魅力」のすべてをまとめるのは容易ではありませんでしたが、生まれ育った宇久島を別視点から見つめる良い機会となりました。



☆講師の先生方☆

- *熊本 鷹一さん/海風舎発行『島へ。』の編集者
- *北 悟さん/一般社団法人 3710Lab 代表理事
- *田口 康大さん/東京大学海洋教育促進研究センター特任講師、3710Lab 理事
- *吉村 雄大さん/「スタジオ・プリントビルゴラ」のデザイナー



第1回 ワークショップ (4月12日)

名前 辻 まこと

第1回ワークショップでは、自己紹介から始まり、雑誌『島へ。』についての説明を受けました。

また、「島って何だろう」という講師の方の質問に対して島のあり方、現状など、それぞれの考えを共有しました。日本の島の数や人口、領土問題、文化継承、新制度など、様々な考えが挙がり、「島は多様な役割を担っている」ということを学びました。そして、私たちが住む「宇久島」をテーマに宇久島のいいところ、好きなところ、そして宇久島が抱える問題などを話し合い、宇久島の未来を担う私たちにとって、宇久島について考え直すとても貴重な経験となりました。

授業の後半では、宇久島特集の記事作成のためのテーマやプロジェクト名について検討しました。その結果、「宇久島の未来をつくるプロジェクト」をテーマに、活動していくことが決まりました。3年生は、初めての試みに不安と期待を抱きながら、雑誌作りがスタートしました。



第2回 ワークショップ (5月24日)

名前 川上 桃子

雑誌作りをするにあたって、それぞれが考えていることを「誌面にどう落とし込んでいくか」を検討するために、デザイナーである吉村雄大さんのご指導のもと、「ラフレイアウト作り」を行いました。

ラフレイアウト作りとは、誌面を仕上げていくための「最初のたたき台」を作る作業工程のことです。

まず、取り上げるテーマを決め、「何を伝えたいのか」、「どう表現したいのか」を考えました。テキストや写真を選びそれを厚紙に並べ、それぞれ雑誌の誌面を作るという作業をしました。全員が初めての経験で、テキストや写真の位置、分量など、試行錯誤しました。しかし、アドバイスをいただきながら、自分の中に生まれたアイデアを表現しようと、積極的に作業に取り組むことができました。

出来上がったラフを示しながら、「何を伝えたいのか」、「工夫した点」、「レイアウトのかたち」についての説明、意見交換をしました。それぞれが作成したラフを見てみると、情報を豊富に散りばめているもの、写真やテキストの分量のバランスがうまくとれているものなど、各自がどう表現したら、相手に伝わるのかを踏まえてうまく作ることができたと思います。



講話「宇久島について」 (5月30日)

名前 宮崎 風香

『島へ。』の雑誌の誌面作りを始める前に、佐世保市宇久行政センター産業建設課課長 永島清治さんを講師としてお招きして、宇久島の現状をお話していただきました。

〈学んだこと〉

☆宇久島が現在行っている取り組み☆

- * カフェ(あられ茶房) * 水産加工場(黒朝鮮魚店)
- * オリーブ事業 * 宿泊施設のリフォーム(丸金)
- * 民泊事業の充実(現在20件) * ふるさと納税商品作成

☆宇久島の抱える課題☆

- * 進学、高齢者の死去等による、急激な人口減少
- * イノシシによる被害の増加
- * マダラカミキリムシの大量発生に伴う枯れ松の増加
- * 「民泊事業」や「島暮らしの体験事業」などの取り組みが浸透していない。

☆宇久島の魅力☆

- * 伝統行事(祇園祭、ひよひよ祭り、おくんちなど) * 豊かな自然



第3回 ワークショップ (6月 7日)

名前 浦吉 翔

前半は、四人の講師と「宇久島の問題について話し合う」をテーマにワークショップを行いました。

〈話し合いの内容と成果〉

☆宇久島の問題☆

- * 遊べる場所や働くところがない
- * 宇久島に注文した商品が届くのが遅いなど

☆宇久の未来を考えて不安に思うこと・感じること☆

- * 宇久島の人口がさらに減少して、無人島化
- * イノシシの繁殖が増えて、襲われたり、農産物が食べられたりしてしまう。
- * 太陽光発電の設置により、人口が増加して、治安の悪化 など

☆宇久島の未来のために自分たちができること☆

- * 宇久島のPR ・一回島外へ出て、いずれ帰ってくる
- * 宇久島に住んでいる時間や地域の人たちとの繋がりを大切にすること
- * 宇久島の活動に積極的に参加すること など

後半は、コースに分かれて次のように、それぞれの活動を行いました。

☆理文Ⅰ…雑誌原稿の訂正

☆文Ⅱ…取材先決め→アポ決め→取材先へ事前打ち合わせの電話



第4回 ワークショップ (8月1・2日)

名前 竹村 太斗

☆インタビュー☆

1日～2日の2日間で、かんころ餅を作っている榎さんや漁協支所長の里村さんなど5名の方にインタビューを行いました。読者に伝わる執筆にするために、具体的な質問をすることを意識してインタビューを行いました。

☆インスタ映えページ用の写真撮影☆

大浜海水浴場などの有名な絶景スポットを中心に、その他島民だからこそ知っている絶景スポットを7箇所ほど回り、写真撮影をしました。背景を変えたり、遠近法を利用したりするなどさまざまな工夫をして、宇久島ならではのインスタ映え写真を撮ることができました。

☆記事のデザインと執筆活動☆

2日間ともインタビュー・写真撮影後に、執筆活動を行いました。それぞれの担当の記事を書くことは初めてだったので、書き始めはなかなか筆が進みませんでした。しかし編集者の方から頂いたアドバイスを踏まえて執筆することで、読み手に伝わりやすい文章を書くことができました。



第5回 ワークショップ (10月 8日)

名前 平田 明日香

講師2人をお招きして、私たちが作成したラフを再度見直す作業をしました。

誤字脱字や、レイアウトのミスなどをみんなで意見を出して訂正し、完成したときに読者の方が見やすいようにしました。また、記事の内容について、取材先に再度電話で確認をしたり、新たな取材先にインタビューをしたりしました。

最初に、原案を見たときに、自分たちが作り上げたものが雑誌になるという実感と喜びが湧くとともに、間違いがないように正しく情報を伝えなければいけないという責任感が高まるのを感じました。

今回のワークショップでは、自分が何を伝えたいかによって文字や写真の大きさやデザイン、また、文章構成を工夫することで、読者に伝えたいことをよりわかりやすく伝えることができることを再確認しました。また、講師の方や周りの人と協力しながら作成することで、違う視点から記事を推敲し、より読者の興味をひくような記事になったと思います。今回の雑誌作りを通して、人に自分の思いを伝えることは難しいということを感じました。



産業祭 (11月11日)

名前 浦吉 翔

産業祭りにおいて、三年生の文Ⅱコース六名は三年生全員でルポ作りに参加した雑誌「島へ。」の予約受付、ファッションの授業で作成した浴衣の提示、学校生活の紹介をしました。

☆感想☆

- * 購入予約をしてもらえるように、活動の内容を説明した。説明するのは難しかったが楽しかった。
- * PRを工夫していたらもっとお客さんが予約してくれたのかもしれないと思った。
- * 予約を取るだけでなく、学校生活の様子などをポップで紹介することでよりお客様を集めることができた。
- * 宇久高校の出来事や浴衣も一緒に展示することで多くの方が立ち止まって見て下さっていた。
- * 私たちの取り組みについて質問をして下さる方もいて、その質問に対してしっかり答えることができた。
- * 予約が主な目的だったが、宇久高校の出来事や浴衣も一緒に展示することで多くの方が立ち止まって見て興味をもってくれるような展示物を作ることができた。



PR/広報

瀬島経済新聞 (2018年6月22日) 掲載

ニュース

【島News】長崎・宇久島の高校生が地元取材。雑誌掲載を通して郷土愛を育む

瀬島経済新聞 2018/06/22

大塚の取材 宇久島の高校生

島々の高校生が手がけた記事も雑誌掲載する取り組みが始まっている。瀬島マガジン「島へ。」編集部が指導役となり、2017年は宮城県気仙沼市の観光・大島（おおしま）(正式版)で、2018年は宇久島（うくしま）(長崎版)でプロジェクトを実施。長崎県宇久高等学校で1回目のワークショップが始まっている。



宇久高等学校3年14人が参加したワークショップの様子。(長崎版) 長崎県宇久高等学校

2018年は宇久島でプロジェクトを実施

今年で2年目を迎えた同プロジェクトは舞台を長崎県宇久島に移し、長崎県宇久高等学校の3年生10名が参加。同校の「総合的な学習の時間」を使い、4月から1回のワークショップがスタートした。

初回のワークショップでは「島へ。」編集部の熊本第一デスクが講師役となり、日本に2,852ある「島」について講義。国土保全庁による島の定義や、島が果たす役割として「防災及び地域の経済圏などの保全」「多様な文化の継承」などを紹介した。

また、取材や撮影、原稿執筆、印刷など、雑誌制作の流れを紹介。「いずれの工程においても読者に何を伝えたいかを想定することが大切です」と生徒たちにも雑誌づくりの基本となる考え方を伝えた。



「島へ。」編集部熊本第一デスクによるワークショップの様子。(長崎版) 長崎県宇久高等学校

生徒たちは3グループに分かれて話し合い、宇久島の好きなところや嫌いなところなどについて自由に話し合いながら誌面で伝えたいテーマを探り、プロジェクト名を「宇久島の未来をつくるプロジェクト」と決定した。

雑誌PRポスター

11月15日
雑誌『島へ。』発売!

3年生10名で執筆しました

瀬戸内海道
SETOUCHU COASTLINE ROAD

厚着の宇久島 魅力ルポ

¥ 842

予約受付中!

活動紹介

『島へ。』活動の様子

<インタビュー>

議論の方にインタビュー
かみころもちのブドウの話を
見て興奮気味です!!!
宇久島の歴史についてお話を聞いています
島についてお話を聞いています

<執筆>

インタビューで得た情報をもとに文章にのこしてみたい、イラストを描いた方がいい様子

<写真撮影>

対馬燈台
大浜海水浴場
スズノ海水浴場
撮った写真を確認している様子

長崎新聞 (2018年12月15日掲載)

西日本新聞 (2019年1月11日掲載)

2018年(平成30年)12月15日 土曜日 ローカル

宇久島の魅力アピール

専門誌掲載 地元高3 特集15分を編集



佐世保市の歴史、宇久島の魅力、島の魅力を伝える記事が、島の魅力を伝える専門誌「島へ」に掲載された。この特集は、宇久島の魅力を伝えるための15分の特集を編集した。取材、写真、細部までこだわり、島の魅力を伝えるための記事が、島の魅力を伝える専門誌「島へ」に掲載された。

取材、写真…細部までこだわり

佐世保市の歴史、宇久島の魅力、島の魅力を伝える記事が、島の魅力を伝える専門誌「島へ」に掲載された。この特集は、宇久島の魅力を伝えるための15分の特集を編集した。取材、写真、細部までこだわり、島の魅力を伝えるための記事が、島の魅力を伝える専門誌「島へ」に掲載された。

3710HP <http://3710lab.com/> (随時更新)



HOME 学ぶ みなとラボとは お問い合わせ SEARCH

NEW TOPICS



(第3種郵便物認可)

宇久高生の記事、専門誌掲載

捕鯨の歴史 インスタ映えの海

育った島の魅力PR 3年10人全員、卒業前に



宇久島の魅力を取材した記事が掲載された「島へ」を手にする宇久高の生徒

佐世保 五島列島の北端、佐世保市宇久島にある宇久島の3年生10人全員で取材した記事「宇久島の魅力」が島専門誌に掲載された。この春、卒業して島を離れる生徒たちは「育った島の良さを多くの人に知ってほしい」と願いを込めた。

掲載されたのは隔月刊誌「時代の鯨」が島で発見された「島へ」(海風舎)。学業、江戸時代以降も捕鯨で島の地景調査の探求活動が潤った歴史を関係者から聞き取った。鯨の形をイラストで表現し、ロジックの一端で、生きた鯨の骨格の写真を生徒が島の歴史や自然、自慢を添えて、宇久島と捕鯨の真材などを取材し、13分「切っても切れない関係」にまとめた。

浦吉翔さんは古くから盛んな「切っても切れない関係」を伝えた。

社長の佐世保市宮崎風香さんはインタビューで「島へ」の魅力を語り、島の魅力を伝える専門誌「島へ」に掲載された。この特集は、宇久島の魅力を伝えるための15分の特集を編集した。取材、写真、細部までこだわり、島の魅力を伝えるための記事が、島の魅力を伝える専門誌「島へ」に掲載された。

3年生は卒業すると進学や就職で島を離れ、佐世保市本土や福岡県へ新しい暮らしを始める。佐世保市の専門学校に進む浦吉翔さんは「大好きな宇久島を離れたくない」と、卒業作品への思いを語った。

(山上武雄)

PR動画 (文化祭・Uku Labo 発表会で放映)



「島へ。」11月より発売！
買ってねえ～!!

①発表会をしてみたの気づき・反省

【理Ⅱ文Ⅰ（ステージ発表をしていない生徒）】

- ・見てもらう方にわかりやすく伝えるために工夫が必要で、たくさんの時間や労力が必要なのが見えて分かった。
- ・見る人が飽きないようにお笑いやキャラクターを入れるなどして楽しく、かつ分かりやすく発表していたので、とてもよかったなと思った。

【文Ⅱ（ステージ発表をした生徒）】

- ・活動した複雑な内容を、人前で分かりやすく飽きさせずに伝えることは楽しいと思えた。
- ・練習をすればするほど発表が良くなったので、練習あるのみだなと思った。
- ・最初は、上手く伝えることができるか不安だったけど、みんなで協力して活動することができたので、本番では今までで一番良い発表になった。
- ・1つのものをみんなで創り上げる楽しさを知った。
- ・パワーポイントの使い方をより学べ、プレゼンテーション能力が向上したと思う。
- ・分かりやすい発表にするために、文字はなるべく大きくし、発表内容を厳選して、アニメーションを工夫することが大切だと思った。

②アンケート結果を受けての気づき・反省

- ・年齢を問わず、みんなを楽しませるプレゼンテーションができた。
- ・一般の方のアンケートで、好評だったので、今までの自分達がやってきたことに誇りを持って、これからは色々なことに挑戦していきたいと思った。
- ・小中学生のアンケートで、Uku Labo で何をしているか知ることができたという意見があったので、小中学生にも分かりやすく伝えることができた。今後の小中学生の活躍に期待したいと思った。
- ・情報量が多くて、少し早口になってしまい、分かりづらいこともあったと思った。

③今後に生かしたいこと

- ・自分は文Ⅰコースだったので、取材や記事作りの大半をすることができず、少し残念に思ったが、大学進学後、3710Lab の人達と自分が企画したことを材料に、もう一度、活動したいという思いに駆られた。
- ・島に帰ってくるきっかけをつくりたい。
- ・活性化させる案を提案するだけでなく、実際に自分たちで動きたい。
- ・Uku Labo で得たものを、卒業後の進路先での十分に生かしていけるように頑張りたい。
- ・今後の人生で、Uku Labo で身につけた力を発揮したい。
- ・卒業後も何らかの形で Uku Labo に関わっていきたい。

④後輩（次の担当者）へのメッセージ

- ・お互いに意見を出し合うことで、活動が充実するし、互いの学びや気づきになります。
- ・明るく楽しい発表をして、ますます Uku Labo と宇久島を活性化してほしいと思います。
- ・観ている人が楽しめるように、自分達自身が、積極的に楽しんで表現することが大切です！
- ・宇久島がこれからも活性化していけるように、できることを頑張ってください！！

Uku Labo 事前学習会① (3月13日)

名前 中村 紘輔

1回目のUku Labo事前学習会では、宇久町観光協会の檜垣さんにお越しいただき、訪日する外国人の目的や実際に宇久島で行っている観光客向けの体験ツアーについての説明を受けました。その結果、訪日する外国人には「自然景観」、「神社・仏閣」などが人気があり、加えて日本の地方や日常文化に関心があることが分かりました。その後、宇久島のパンフレットなどを参考に訪日する外国人向けの体験型ツアーにふさわしいアクティビティについてアイデアを出し合いました。これを踏まえ、宇久島ならではの外国人向け観光ツアーの作成に取り掛かりました。



Uku Labo 事前学習会② (3月19日)

名前 平田 翔

外国人向けの観光ツアーを作成するにあたって、体験できるアクティビティの案として意見が出た宇久神楽(宇久島に伝わる五島神楽の1つ)について学びました。五島神楽は、国重要無形民俗文化財に指定されており、島の貴重な文化の1つであるため、七日間の体験ツアーのメインとして五島神楽を第一候補としました。

この日も講師としてお越しいただいた宇久町観光協会の檜垣さんからさらなる資料をいただき、外国人は何に興味があるのかを、資料を基に考えるなど色々な説明を聞くことができました。話を聞く中で「現地の歴史」・「遺産にふれる」などの旅行を楽しむ外国人がいるとおっしゃっていました。

複数の体験ツアーの中から何が外国人の興味を引きつけるのかを考え、七日間の体験ツアーの中身を具体的に考えていきました。



Uku Labo 事前学習会③ (3月26日)

名前 中村 桃子

メインの五島神楽について、新たに講師として平田さんにお話をお聞きしました。宇久神楽には宇久島流と神島流があり、平田さんは神島流の後継者です。五島神楽のビデオも拝見させていただきました。

この日は、各自が事前に考えてきた神楽に関する質問を、平田さんに聞くことができました。「一般の家系の人でも神楽を行えるのか」と言う質問に対し「昔は神社に仕える家系の人しか出来なかったが、今は人口も減少しており後継者を作るという意味でも一般の方でも出来る」というような基本的な事柄から、神島流神楽の現状まで、さまざまなことを学ぶことができました。また、「外国人の方でも神楽を行うことができるのか」と言う質問に対して、すでに観光客に向けての体験を行っており、その中でも「どなたでも体験出来る。外国の方や、宗教が違う方でも可能である」との返答をいただきました。これを踏まえて、宇久神楽を七日間の体験ツアーのメインに据えることとしました。



取材活動（5月15日）

名前 中村 紘輔、平田 翔

宇久島のお食事処「あられ茶房」さんと「レストハウスもりた」さんを訪問させていただき取材を行いました。

あられ茶房さんでは店を訪れる観光客の方についてお聞きしました。安くてボリュームのあるものを好む島民の方に対し、あられ茶房さんにいらっしゃる観光客の方には魚を楽しむ人と島の特産品を使った料理を楽しむ人の2つに分かれるそうです。また、観光客の方は宇久島に限らず離島に興味があり来た人が多いとおっしゃっていました。

あられ茶房の経営者である柿田さんに、過疎化が進んでいる宇久島で店を開こうと思った理由を伺うと、衰退している故郷を助けたいとの返答が返ってきました。そして、自分の料理を宇久に来た観光客の方の記憶として持ち帰ってもらい、また来店してもらいたいとのことでした。



レストハウスもりたさんでは、レストハウスもりたさんの開業時のことや島の現状についてお話をお伺いしました。話を聞く中で、「なぜお店を開こうと思ったのか」という質問をさせていただいたところ、元々は福岡で店を営んでおり、島での出店募集を目にし、応募したところ当選し、宇久島で店を開くことになったとの返答をいただきました。

また、島の現状として、島の人口の減少にもなって、お店に来られるお客さんの数も減ってきているとおっしゃっていました。

外国人の観光客が来たときに通訳がないということから、島民の方から通訳が出来る人を募集し外国人の観光客が来た際に柔軟に対応できるようにしてはどうかとのことでした。



【まとめ】

島のお食事処2軒を訪問させていただき、宇久島を訪れる観光客の特徴や今、島が抱えている問題について詳しく知ることができました。ツアープラン作成時の参考とさせていただくこととしました。